

膵臓癌 07

対象疾患:膵臓癌

【0407】オニバイド/5-FU/レボホリナート療法

【投与スケジュール】 1コース=14日(2週)

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W
イリノテカン (リポソーム懸濁液)	オニバイド	ONV	70mg/m ²	↓ Day1	
レボホリナート	レボホリナート	I-LV	200mg/m ²	↓ Day1	
フルオロウラシル(持続静注)	フルオロウラシル	フルオロウラシル	2400mg/m ²	↓ Day1	

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day1			
内服	アプレピタントカプセル 125mg	1C	オニバイド投与 60~90分前
①	生食注シリンジ 10mL	1本	フラッシュ
②	アロキシ静注 0.75mg	1本	30分
	デカドロン 3.3mg/1mL	3管	
	生理食塩液 100mL	1本	
③	オニバイド	70mg/m ² ※	90分
	生理食塩液 500mL	1本	
④	生食 50ml	1本	10分
⑤	レボホリナート	200mg/m ²	2時間
	生理食塩液 250mL	1本	
⑥	フルオロウラシル	2400mg/m ²	46時間 (持続静注)
	生理食塩液	適量	
⑦	生食注シリンジ 10mL	1本	フラッシュ
Day2、3			
内服	アプレピタントカプセル 80mg	1C	午前中
内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠	分2 朝・昼食後
Day4			
内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠	分2 朝・昼食後

※ UGT1A1 遺伝子多型検査がホモ型、*6/*28のダブルヘテロ型では、オニバイドを 50mg/m² に減量

催吐性	中等度リスク(30~90%)
	オニバド: 炎症性抗がん剤
	フルオロウラシル: 炎症性抗がん剤
	オニバド >10%…骨髄抑制、下痢、感染症、肝機能障害、悪心 頻度不明…間質性肺炎、消化管出血、黄疸、播種性血管内凝固、心筋梗塞、 狭心症、心室性期外収縮
	フルオロウラシル >10%…食欲不振、下痢、口内炎、骨髄抑制 頻度不明…心筋虚血 白質脳症

【注意事項】

- 催吐リスクは中等度ですが、副作用で悪心が50%以上のため注射薬は高度催吐性リスクに準じて作成しています。内服の制吐薬は主治医の判断で処方してください。

(イリノテカン)

- 初回投与前に UGT1A1 遺伝子多型検査を行ってください。院内規定の説明・同意文書があります

レジメン登録承認	2021年5月6日 化学療法委員会
参考資料	Nanoliposomal irinotecan with fluorouracil and folinic acid in metastatic pancreatic Cancer after previous gemcitabine-based therapy(NAPOLI-1): a global, randomised, open-label, phase 3 trial. Lancet 2016; 387: 545-57 オニバド適正使用ガイド オニバド インタビューホーム 日本膵臓学会 膵癌診療ガイドライン 2019年版